

Newsletter

No. 36 December 31 2019

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点

チリ拠点OBから見た東京医科歯科大学の海外拠点雑感



皆さまご無沙汰しております。2013年から2015年にチリ拠点に赴任していた岡田卓也です。帰国から早くも5年弱が経過しました。2019年8月より統合国際機構の教員として、また同時に医学部附属病院国際医療部の部長として、教育・研究・医療の多角的視野から東京医科歯科大学のグローバル化を推進する業務に携わっております。

本学には3つの海外拠点があります。南米チリ、アジアのタイ、そしてアフリカのガーナです。いずれも、それぞれの国と本学との長い協力関係と交流により築かれた相互理解に基づき連携をさらに深めるため、文字通り拠点となりました。これらの

海外拠点では、現地の医歯学系施設と共同で研究を行ったり、本学学生の留学を受け入れたりしています。

さて、私は統合国際機構に着任して最初の海外ミッションとして11月にガーナ拠点に出張に行って参りました。拠点の皆様と今後の活動を推進するための意見交換はもちろんのこと、ガーナで開かれた「日本留学フェア」に参加して東京医科歯科大学のプレゼンス向上と留学生の呼び込みを図る目的での訪問です。東京からガーナの首都アクラまでは飛行機だけでも約20時間、チリ拠点で慣れていたとは言えやはり長い道のりでした。

ガーナ拠点には現在、林隆也特任講師が駐在派遣され、野口記念医学研究所で熱帯性疾患の原因ウイルスに関する研究や人材育成を行っています。林先生のおかげで出張中も安心して過ごすことができました。同じ拠点経験者ならではの話で盛り上がり、お互いの困ったことや大変だったこと、プロジェクトセメスターの学生の研修のことを共有するのは、私には貴重な時間でした。林先生には残りの任期も安全無事に過ごしていただけるようお願いばかりです。

チリの場合もそうでしたが、ガーナでも行く場所や時間帯、移動手段さえ間違えなければ危険な目に遭遇する機会は少なく、日本人も問題なく暮らしているようです。出張中は日本大使館の方々にもお会いし、アフリカでは比較的治安の良い国で、学術交流を通じて双方の発展が見込めるとおっしゃっていました。チリもガーナも日本にいとあまり情報が入ってこないためイメージが先行しがちですが、拠点の活動や学生交流を通じて相互理解を深め、馴染みのない方々にもそれぞれの良さを知っていただければ、さらに海外拠点の活動も盛り上がってくれることと思います。



統合国際機構 岡田卓也特任講師

LACRC TMDU
IN CHILE
Latin American Collaborative Research Center
Santiago de Chile



Contents

ご挨拶	1
PRENECの進捗状況	2
プロジェクトセメスター	3
活動報告	4

PRENECの進捗状況

大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)の最新情報をご報告いたします。

プンタ・アレナス、サンティアゴ、バルパライソ、バルディビア、オソルノ、コキンボの6都市に加えて、コンセプションでPRENECが開始されましたが、バルパライソとコンセプションで運営に関する問題が生じたため、現在、休止状態となっています。早期に問題が解決され、再開に向かうことが期待されます。国外ではパラグアイにおいて、PRENECのPilot studyが終了し、本格的な開始に向けて準備を進めています。

PRENEC講習会



講習会参加者との記念撮影

アントファガスタのグスマン病院とは、2016年にPRENECの拠点となるための調印を交わしたものの、州政府からの予算が獲得できず進捗してはいませんでした。しかしながら、継続的に州政府へのアピールや市民への啓発活動などを続けていた結果、今年に入り来年度の予算獲得が見込める状況になったため、11月11・12日の2日間にわたり、クリニカ・ラス・コンデス(以下CLC)にてグスマン病院の医師・看護師らを対象にPRENEC講習会を行いました。本講習では新規参加に必要な設備、運営方法、データの取り扱いなどへの説明を中心に行いました。

LACRCの小田柿助教は、PRENECにおける内視鏡治療や内視鏡トレーニングに関する発表を行い、講習参加者より高い関心が寄せられました。

アントファガスタでの準備が順調に進捗した場合、2020年1月に本格的な始動となる予定です。

オソルノにおけるPRENEC研究会

昨年に続き、PRENECの拠点の一つであるオソルノで、12月13日、PRENECに関する研究会が行われ、PRENEC責任者であるロベス医師、CLCのポンセ看護師とともに小田柿助教が招聘されました。

この研究会では、オソルノでのPRENECの進捗状況の報告があった他、ロベス医師、ポンセ看護師からはPRENEC全体の進捗や問題点、今後の展望などの説明がありました。小田柿助教は、PRENECでの大腸内視鏡トレーニングや内視鏡治療に関する発表を行いました。今後の発展に向けて有意義な場となりました。



巨大結腸モデル前での記念撮影

プロジェクトセメスター

本学医学科4年次の学生を対象とした学生海外基礎医学実習（プロジェクトセメスター）で、6月よりチリ大学に派遣されていた2名の学生の最終発表会が、10月30日にルイス・カルボ・マッケーナ病院にて行われました。例年、本学学生の受入が行われている感染症分野に加えて本年度は、認知神経科学分野の研究室も加わりましたが、両分野の充実した結果に教授陣より高い評価を得られました。

学生挨拶

澤口圭宏 チリ大学 感染症分野所属

ありきたりな言葉ですが、終わってみればあっという間の半年でした。留学の総括ということで何を話そうか大変悩ましい限りですが、留学を通してずっと意識していたスペイン語学習について話したいと思います。喜ばしいことに、全く話せない状態から今では軽い討論ならスペイン語でできるようになりました。その過程で意識していた2つのことを紹介します。

一つ目は「文化ごと学ぶ」です。言葉が通じないからと諦めずに、チリ人の集まりに積極的に参加しました。そのおかげで言語の背景にある文化への理解が深まり、また言語の本来の目的である人との対話という側面を常に楽しむことができたように思います。

二つ目は「失敗を恐れない」です。日本人なのだからもともとスペイン語を話せないのはあたりまえなのだという精神で、知っている単語をつなげて投げかけました。多少おかしくても意味は通じますし、やさしい人は正しい表現を教えてください。なんと無料のスペイン語の先生になってくれるわけです。

今回の留学を通じて言語面のみならず、人間として大きく成長することができました。研究室でお世話になった先生方を初め、生活面で助けて下さったLACRCの方々、そして多くの仲良くしてくれた友人に感謝を申し上げます。



研究室メンバー

原田大輝 チリ大学 認知神経科学分野所属

ようやく暖かくなり始めたこの頃11月上旬、まるでこちらに来たのが昨日のようです。最終月はなんとチリの神経科学学会に参加することができました。半年弱という短い期間ながらある程度の結果を出してポスターを作り、それを見ず知らずの人達に対して何回もプレゼンすることができ、非常に良い実践となりました。学会はサンティアゴからバスで北へ6時間ほどのLa Serenaという場所で行われました。海岸沿いの素晴らしいロケーションで様々な講演、議論が行われたのは、そもそも正式な学会という場に行くのが初めての自分にとって非常に感慨深いものでした。現在チリは大変不安定な状況でももちろん危ない面もありますが、チリを深く考えるキッカケにもなりました。学会でもこのトピック専用の議論が行われるなど一人一人がしっかりと問題意識をもって政治に日本よりも断然興味があると感じました。研究、政治、文化、人間関係など様々な要素に毎日身を晒されるこの留学は色々な面で自分の視野を広げ洞察を深くしてくれたと思います。

最後に全てのサポーターに感謝を示して終わりたいと思います。Chao!!



学会参加時の名札(@La Serena)

LACRC活動報告

パナソニック株式会社によるCLC施設見学

パナソニック株式会社健康保険組合からの派遣団が、同社チリ駐在員の受け入れに適した医療機関を選定するために訪智しました。

CLCにも視察に訪れることになったため、日本からの派遣団ということもあり、CLCの渉外担当者とともにCLCの施設案内をしました。その際に、短い時間でしたが、我々の活動についても紹介する機会がありました。

本拠点では、チリ在留邦人の方への診療の補助及び通訳は、業務として行っておりませんが、通訳会社の紹介や、このような見学の際にお手伝いをするもあります。

今後もこういった形で在留邦人の健康管理の一助となれば幸いです。



(左より)ハイメ事務補佐員、石幡氏、畑中氏、村野医師、小田柿助教、早川事務補佐員

サンチャゴ日本人学校学生の病院見学



ヘリポートでの記念撮影

サンチャゴ日本人学校から社会科見学の 일환として病院見学の依頼があったため、11月22日、日本人学校の学生を対象にCLCの施設見学を行いました。当日は、小学6年生が4名、中学生が7名の計11名が引率の先生方とともにCLCを訪れました。

我々と親交のあるCLCのサラテ先生の協力の下、CLCの救急部門、内視鏡部門、研究室の見学を行いました。

CLCの施設見学終了後、小田柿助教がサンチャゴ日本人学校に訪問し、チリと日本の医療システムの相違、本学のチリでの活動等についての講演を行いました。

こういった活動を通して、将来を担う新しい世代に少しでも医療や医療を取り巻く状況に対する理解が深まればと願っています。

ビニャ・デル・マルでの研究会への参加

10月5・6日、チリのビニャ・デル・マルにて第2回国際外科内視鏡研究会が開催され、スペイン、ブラジル、コロンビアの医師らとともに、小田柿助教が演者として招聘されました。

本学会は、治療内視鏡や超音波内視鏡をテーマに最新のトピックについての発表や、症例検討などが行われました。小田柿助教は、チリでの経験に基づいた胃がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)に関する発表を行いました。



学会に参加したサン・ボルハ病院のスタッフとの記念撮影

バルパライソでの内視鏡治療サポート



左よりフェラダ医師、小田柿助教

LACRCの小田柿助教は、チリ国内の病院からの要請を受けて、現地の医師のみでは内視鏡治療を行うのが困難な症例のサポートを行っています。

10月5日、以前に小田柿助教の内視鏡トレーニングを受けた、クリニック・バルパライソのフェラダ医師からの要請を受け、大腸ポリープに対する内視鏡的粘膜切除術(EMR)のサポートを行いました。

今後もこういった活動を通して、チリの地域の内視鏡医師の技術の向上に貢献してまいります。

編集後記

チリでは10月18日、首都サンティアゴの地下鉄運賃引き上げに抗議するデモが起きたことをきっかけに、一部の抗議活動参加者が暴徒化し、チリ全土へと動きが広がりました。

幸い、CLC及び当拠点において被害はありませんが、予定されていた講習会の延期や、サン・ボルハ病院での検査や治療が一時中止となり、PRENECにも影響がでました。

新しい年とともに、少しずつ事態が収束されていくことを祈っております。(早川美貴)

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点
Latin American Collaborative Research Center
Newsletter No.36 December 2019

[発行日] 2019年12月31日

[制作] Latin American Collaborative Research Center
Tokyo Medical & Dental University
Clínica Las Condes
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile
Tel: (56-2) 2610 3780
Email: LACRC-CHILE.adm@cmn.tmd.ac.jp